

## 吉村主任研究員がICETET-12の最優秀論文賞受賞

当研究所の運航・物流系運航解析技術研究グループの吉村健志主任研究員が主著者となって発表した論文、「A Method for Quantifying the Risks of Human Error from Experiments with the Ship Bridge Simulator」が2012年11月5日～7日、兵庫・姫路市内で開催されたIEEE Fifth International Conference on Emerging Trends in Engineering & Technology (ICETET-12)で最優秀論文に与えられるBest Paper Awardsを受賞しました。本論文は正田賢次郎主任研究員をはじめ、伊藤博子主任研究員、西崎ちひろ研究員、三友信夫上席研究員と共同で執筆したものです。

本論文は、海難の原因を客観的に明らかにするため、操船シミュレータ実験の結果を操船者の認知・判断・行動モデルに基づいて分析する手法を提案したものです。また、延べ20名以上の実験参加者による実験の結果から、本手法が海難の原

因を分析する有用な手法となり得ることを示しました。

なお、写真は左から西崎研究員、吉村主任研究員、Dr. Preeti Bajaj (ICETET-12のGeneral Chair)、伊藤主任研究員。



## テクノオーシャン2012最終日に講演会を開催

当研究所は、2012年11月18日から3日間、神戸国際会議場で開催された「テクノオーシャン2012」の最終日に一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構(会長:木下健)と共同でオーガナイズド・セッション(講演会)を開催しました。セッションは「海洋再生可能エネルギーの利用に向けた取り組み」をテーマとしたもので、同テーマをめぐって最前線の政策や開発動向を紹介しました。

講演会が開催されたのは、テクノオーシャン2012最終日となる11月20日。会場となった神戸国際会議場の講演会場(4階401・402)には120名以上の人々が聴講しました。

セッションでは(1)東京大学の木下健教授による「海洋再生可能エネルギーの世界と日本の現状と課題」(2)内閣官房総合海洋政策本部事務局の阿部聡内閣参事官による「海洋再生可能エネルギー利用に関する今後の取組方針について」(3)当研究所洋上再生可能エネルギー開発系の井上俊司系長による「洋上再生可能エネルギー利用における安全性および性能の評価について」(4)川崎重工業技術開発本部技術研究所の佐藤栄治主席研究員による「潮流発電システムの開発」(5)佐賀大学海洋エネルギー研究センターの池上康之准教授による「国内外の先導的海洋温

度差発電の動向」(6)電源開発の和田俊郎水力発電部長と笹川剛課長代理による「IECにおける海洋エネルギー変換装置の規格化活動(TC-114)の紹介」の各講演が滞りなく行われ、盛況裏に終えることができました。

また、テクノオーシャン2012開催中、当研究所は5階展示場にブース出展し、研究所の紹介をはじめ、「LNGシミュレータの開発」「浮体式洋上風力発電の研究開発」の研究成果をパネルで紹介しました。



講演会風景